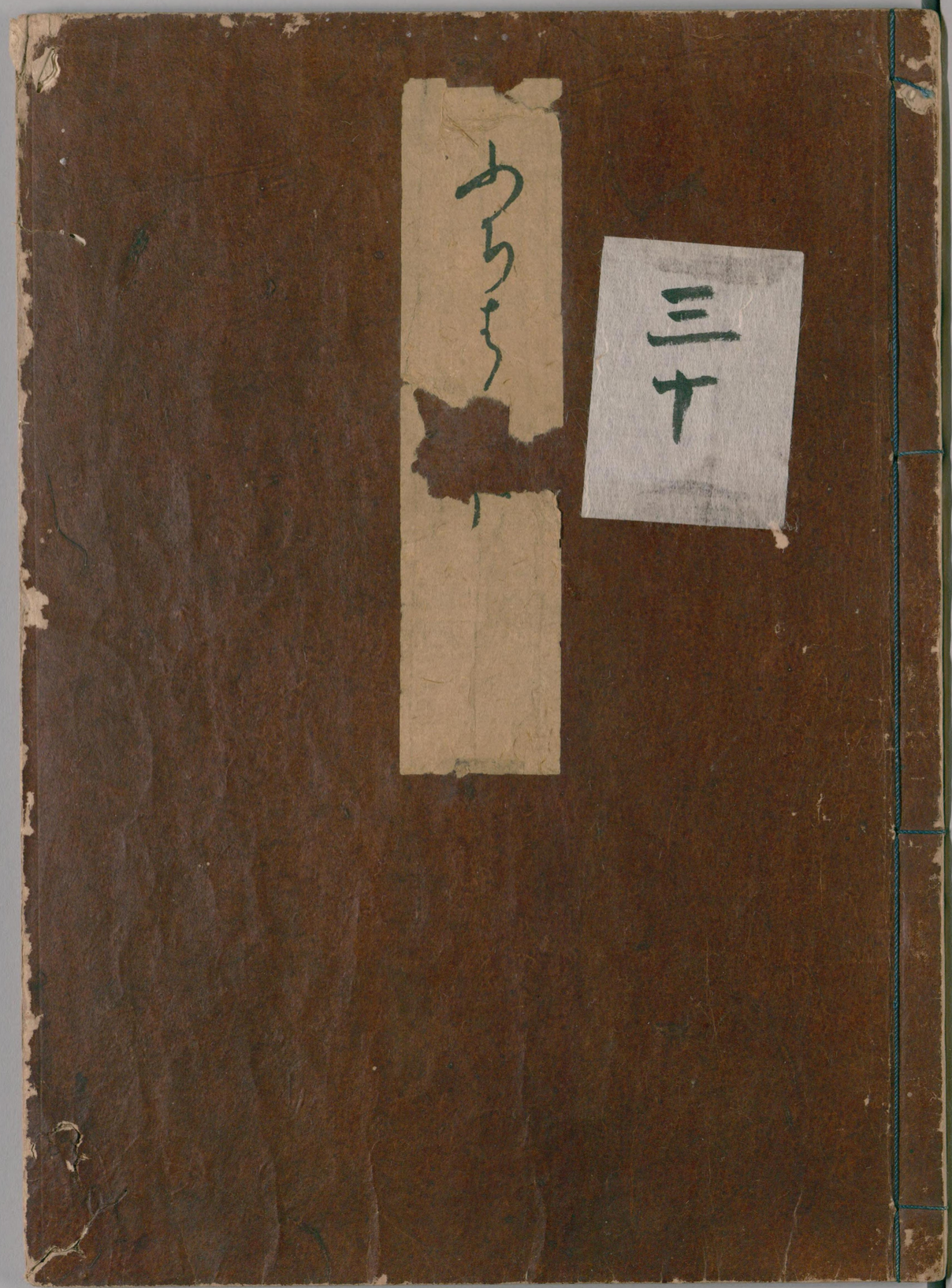


国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

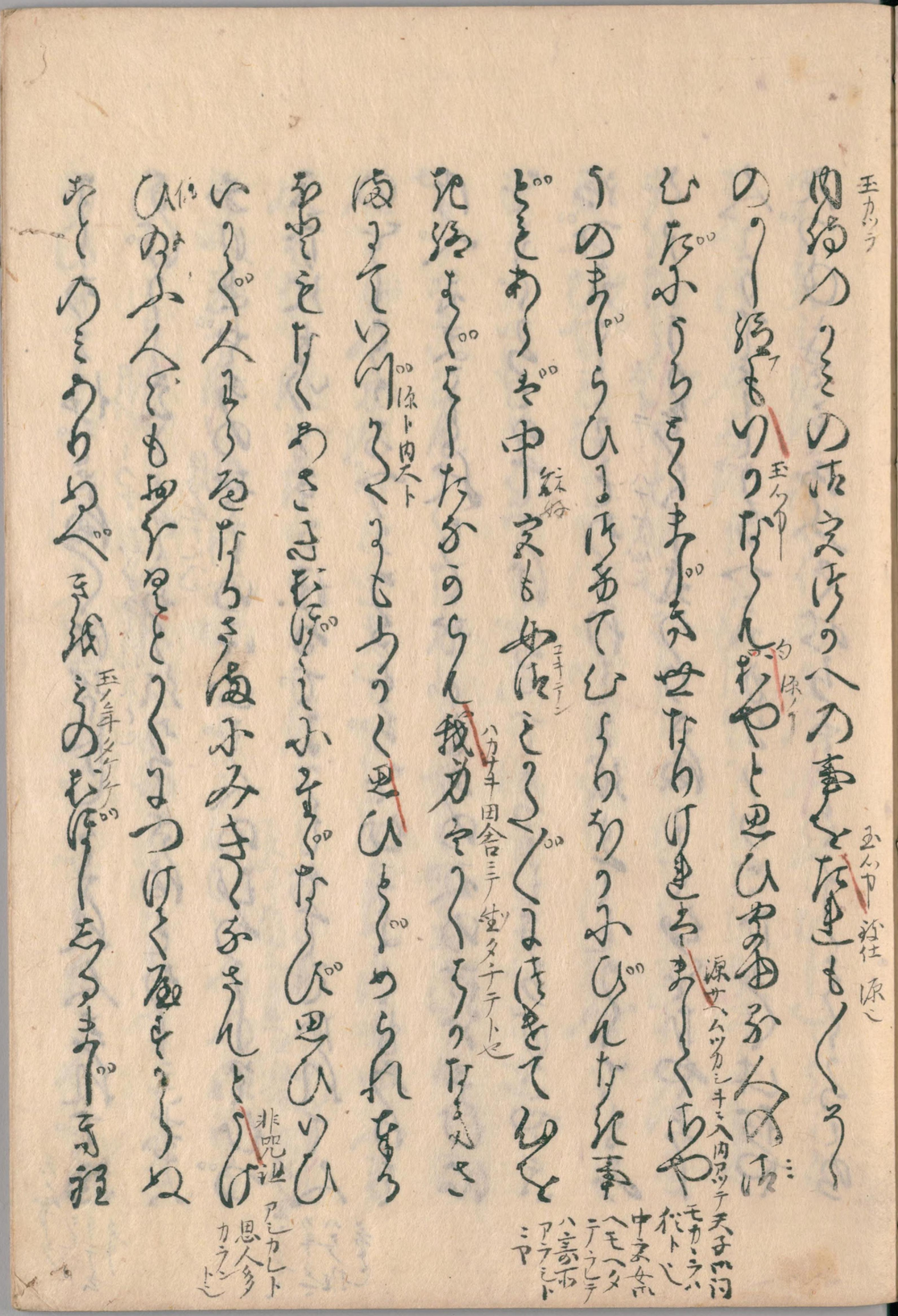
ガラス使用

第五十四

源氏物語 五十四卷

渡利邑

松浦氏



国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

てだにすることはまいてなりにけるとてみてく
てまつるよ　夕霧ノ宰相ノ中将ハ奏ノ間成ベシ　いろはの
まやうなるをとをかさねてゑいまき沈く所
もまぶいやをなかめしうつくしうたちて
はめうり物まうやうひとせさきこ沈くぶを
てこなれてうくしきさ海つるやりくすり沈く
ぶちなりひよ今ハ玉ト夕霧ト実ノ兄弟ヤウニテ今実又敬テ大方ニアランモノヲトシ
はらんをうてあれべる絵みすれ帖うくさる
所
ぬいめんをんぶくなりてあるとなるとなるはせう
うこうてうらうらはをまいたけ沈海やうては
夕霧ハ沈はるをのるなるとそ玉
所也おとうなる物

うこいふやうやくやもしるものあるひとらく
しをなつしきふ所あてるうの聖ふうなの
海ものをう夕霧ノ見ニ行野分ノ巻ニアリ　ひしてくうく
ちるおひしをきあこさうてまを兄弟ト思ヒシ也
らあひちうひてうのみやをりへとおかかすもう
ぶ　源氏ニ玉ノ文仕ニ和ニ沈テモケサウハアラントト夕霧ノ希ハ
ひとをくおりまさ海なるうこ
きちるすのぐえなんしと思よぶか
らびもをうひちすれとけ思なくをくう
すくへ　原ノ秘言アシト申返リトニ　名ハ
おいの所沈ぶえとぶえぶぶちうくあるう

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号　　ガラス使用

とてまゐるらるるもたのもしうあはれ
げにおぼしつるにめぐりてやこむとうけたまはる
花のいとおもしろきをもみるにつけて
うらやましうあはれなるものをとおぼしつづけて
春は蘭 秋は菊 蘭は兄 菊は弟オトニスルナリ兄オトニスルナリ
菊
菊
菊

思ひしるまで文をみるにこゝぬ
きなとゝゆるもいとゝうやうなる
たゞかりとのうるおやとうやう
ふかきこゝらを
ゆくへもかりとこゝろうるけもこゝぬ
なりんのちやうくひえいるとけくもつゝやれ
りんさひうきかけきうかあやまちをまて
きみのちやをまつゝ山ゝ
らし物とそてうゝれのくにはをこうのくら
ゆえはのとうやくるやくくるんそい
ゝとてゆるまへいやうくくらるけえてゝちぬ
ね中ゆうとうゝ出くけるうかとはゝ

ゆきくうのちすゝかゝ
ひとうそうこの物ゝくもゝ
なんのくこきうをとやそうゝそ思ひけれ
まのへまゝをゆくへ
のゝこれ文ゆのをとゝくにうゝ思ゆくれ
文なとゝまんゝゆをひゝのきをと
ゆくゝひかやゝゆくよひやゝとぬらしと思ふ
ひなんひくゝゝえゆきとたゝ
をみゝきゝゆけてゝやゝかてゝくれゝけりや
思ひけゝをきゝうれ人をのゝふもみをゝう
てゝもみやつゝをゝすゝりくをれしを思ひ

てすんちの（ミヤツカイ）ことく物をしなとの法へてさく
も人（さの）海をいりのくるほをたつハさぐひく物
法らん中をくなしひなを天をらくおはまて
あすんてんやんこなくなをこをふて物一法へて
いこしきをひをこをさらたをのかしひのふこをく
こをゆ〜光高をとやわんしろはをこをるを
ひをこをいををいをいなをこをるひをきをの新
やれとふくしをやのうをやわがひひとト法
のなるんのうをよてをうこぬをとありんつきを
（栄）（石女ニテモアラスモノカラ）（ノ方）（実ハナラハ独ニテサシメカネ）（ヒケ石）（原）（昌会）

こをうひなすぐくうこれをひぐこさ
をみをぐきでうやなれんのうをれおうをりて
をうくこををなりをのをををれ
をいひをきこ中のますれをうをひぼをき
山ちやまるひこきこをとうの（玉カツラノ行ノ方ノトモ）（沈イ）
法をくもをすをとうきをしまいをれをくて
ヨをこ法ノ布へ（沈イ）をうこをなわをこをくをの
うのれとぐも人めのひ幼ちを（沈イ）
法ひなを人（玉ノ）を高（栄ノ小方ニテヨカン）法人をてをようをこし
いをを光をこをいわをなをめを（玉ノ法ヘ）をるを海をきをを
にこをあくをやをちををこくなをこをあをひを
（玉ノ上ノ）（玉ノ法ノ布ヘ）（りくシノ作）（まゆヲマフ）（将）（月ヲ年）

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

うやをうらしざてきこえけうのもとやうくん
らひさくんのしのくちらくらくしきものむ
やあをとなをもおぼめかしうぞうくしを
てうをのつよねごとせのへ西むうをうをう
おなしのはかへけきのつきまりれはとしわう
くてまくみきこえはりるはむうをひのはて
みうへをやなれうのおくをはやうよなんれ
もひをてあをのはなをうをのしうをうをうて
をこちをりうをしのへ浄オト法ノ者ハとをうをしうへ
うりわしひくくいをうきをなれうをうる後
文つうをををはうををはゆをうをしてうくうん

とおくをこまんはうをををうをのへをこうを
をうのみはようわうれとつくをうをのへくをの
うんのよまうのをん事へうれをきをーやとの浄ふ
うらくをうやんうをなをうをのをうをうをと
つくをのしのへをへをうのをうのをうへうのへ
はをををすをのてしにくゆつりををををのの
文をりへのをうをらうをうをれとををーををつる
いのうーをくのをあるををなりをとるひうをひ
やのをををををうふへのをうをやはーなり
とのをうをうをきをはのをうをを申結へをを
四ひはらしーとおうををのやをとしををいを

三従未嫁父従父既嫁従夫既夫死従子

まのくしけすぐうをゑ（曲ノ心）
ゑうのきゑひなくひなくひ（絵付）
ほのくるほをてもうくもう
まるやとわくひのゑ（絵ノ秀ハ）
とゑ紙うくびひゑ折ゑうる
ゑてくうゑ紙ゑ（如業ン）
きいやくくら折くねぢきく
ゆうちうくひきくゑ紙ゆゑ
そうぞぼよゑ（物ニギル（キヲ）ハ水ヲ（ヲ）ムトシ）
しるきぎれくるゑぼくしを
折くなくひく（オソロシキクヤウカナトシ）ぼくぢさ

ぬゑ浦くゑ月をくも物ゑ（八月ハ志月ヤ）
十月くゆまくゑ折ゆくの浦ゑ
をきまくのくやく幼くを（蛍ヒケ）
ゆくくゑれ浦まひくものさ
かゑすぼゑをゆるび浦くと（妹）
くゆものくきゑくゑれをゆ
ゆいくゑ（心ノ音）ゆゆ（タ音）もなくくなる
折ゆくくらんくくくくまく
やゆんぼくるよ折ゆくのゑ
くひくくゑくゑるせくうゆ
をくくくくゆくくくくくを

（十ノ月ノ月ノ方ヲ（ヲ）ヒさて（ヒ）ヒ方の所ヒさ（ヒ）ヒ人ノ心そ（そ）とゑ（ゑ）ゆ）

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

ミ山を行も山ちなりつゝ行くぶ（沈仕）のはさう
うこゝと思ひやるかゆくめくふうぬなく人よを
とゝろと行んぶ（内イ本ニオイトシ内シ）ていうやをしく（内イ本ニオイトシ内シ）のあらぬ（内イ本ニ我ラ）
あいくゝきあさもえきうぬをうちくにの浦
くんうらんなる事も人のふかうてしまい
つゝこゝやるしぬ事をるむ（内ス モギ以ル ムモトナキトシ）くいぶをくわぶた
れなゝ明るまるしのふつ井でよう（出ノ心あノケサウノタ）くやをこうと
しきこゝろえぞきこゝをぬやいかくみはきて
をうくれをゝぶらくゝをぐするくやをきりゝと
つくくうのうさもうひ行ろ郭ぎゝをふひか
どのぼりてなよゆ（内ノ方）ぶれてゝ（ヒ）ぶうくゝよのうゝ

てもくちうのうぎまくくもぶ（ウ）をつ
うゝ色なゝ色ゝのくくとぶふうかくくもくやま
ぶろくれやうをうゝぶりかくさ海くみ色づくき
せなりうゝとうちのくゝのゝ氏ぶけくうゝをけくぶ
ぶもをのくれぶ（ウ）くん（嵐云重ク中シ）とさこ四ぶよ人ぶくを（宝治沈仕ノ子三手王ノ兄ヲオト申ナサモイカヒトシ）
うちをなるやうゝやとちくぶうゝを行ろ程ゆとく
ぶろのむれいくさをあるくゝかゆゝねをゝや
ぶくなる事ぶくくんとゝをくゝふまし（ヒオイトシアキラメカネニハ涙ナセ）
なのふうまくてゝ（山岩）ぶくてゝうゝけをしこあ事
いもせ山ゝの氏みちをゝたつゝをずをぶくの（岩モル 妹ルト書）
ゆうゝ海をまくひりゝうちと人やり（我ノカラ条ノトイカワニ ケルシト）

なりぬ

玉ノ内とひりるみちをそしらていもをやさしとく
しをそなきもぬみてくしいひ（矢ノモノ名セテ）（岩元オト思合テ女ノ作リヤラシ句ナリトナリ）
こしぬ（ヨウ）ひろうつなかふ（玉ノ合ノ女房ノ合テ申セ）ことをなんまて
ひかりくの世ほそくうせのあまをさえきこえ
さをぬいねよるひとの（今ヨリ後ハウレクシウウセヨトシ）うくるみもゆくむ
やかの月もさるまーなれそ（岩ノ命）なりぬしはらん
こすきまくとやなりやうくらつ（常）ものてらう
そうとくくさちぬふ月くさなくさうあつを
ておのりそんもらんなるよいとうくやうるさよ
きなりのちしてはるくひのをくむやうく

いとおしう（多房）かのおもねのきくひうさ海はをえなう
ひぬんねくあまもおのーうのめりをいつてうれ
はなかやうにん（出生セラレ世ヤリ〜ノトヘ）ひなりあんやをりうのをんくをまのさう
まくをまーをとるをそくあへちねをは
中（岩）ねおおるのすをなれおつのうらひやう
をくわんるあくらひはる（於イテ）ゆくもやう（玉ノイウ）さをのよ
なりんくもやうくやあのはう（ミ）（今上ノ御兄氏成ノ中人ヘ）ものと
なりをめれしるのくなりをなくうやあらんとれ（内大軍）
ゆのおとくのうくーのうくの事くのうのがい
ましうをすべうらしさうやう（保）（保）（内ノ）（保）（内ノ）（内ノ）（内ノ）
ひのをすちりんあれをまうのせやくめへうの

（ヒケ）たゆる春宮の御方の御ぞ
おとゝしうちをこれたてまつりて
そいとやんごとなき女御
みりのうへ御のかくはしさ
ねうし武ゆうなれはおいらくのそみ
つうつのあのあそはことなるかくもふとうね
そんはやいくれつきんとうなとうなてんよ
もいまはいくうしきうんとおもつうのちう大わ弐
おうちに家のたとうさたねれこととすきなく
いとそからんとおぼしうかうしうつ
そうちうこれいうあなかうりんそ

（嫡女）
（年アミテアル嫡ニテ今老女トナリキ玉フ）
（宗上ノ好シノ今キ玉フ）
（具食ト）

ひとつうあうえうひけうのたくこりくを
うれてもおぼしたうごんなりかをえ玉ひ人を拾しび
みたいつくやなくうちくのうををさうくそ
しえたうとしうれをのとさてすかをねへ御
おもひをへこと異なるようとあなれまとれたや
へ御ひぶふさつうずいあうの舞の玉ノ法ノ道ヲ大わうノメノミ行フ
地のう九月うもなりねうつしをひをかれうん
なううたふまねのやうくなうう御ううこれの
引うもみけくうて来うあとをとをみのへ事も
けくてうとうあうをきく玉わうのちる殿ヒケ
うとたのうこうををえゆくうのうたうむ

ほくろう

うずなくいとひやをきて
なが月の余とて
れもやうつふき月ゐ
ものうきさめ
ひかりさせ

やきこんろくなる
兵 毎日ひとをみてもあさましの義分のまま
ものをとすずをうるんぢ
ひさもうりへくるくいとをきうとを
きゝ君をたしちをりてまひ
らうひさやあつの
ひかりさやあつの
ひかくそう

たる兵衆ハ歌ひ
ものなりかさ

なれどものつゝうく物のあひもあてゝ
くそ思ひまひりいをおくうをけく
たる兵衆 ますれなんと思ふも物ハうるさ
たくいうきまふきんうこのあ色をとたたあるる
ものひとさ海くうをんてもみ
うのうこうさうくしをきなとりいふ文ハ
をそのうおがをらんぐいのうまく
玉ノ兵ノ月サスノ心ノ
ものて日うぶにひふひ
ひなふあさを雪
ものれやをもつとはのうな
とのくうほう
みのふうしみつ
ものうをうをれをきりめへきを
ものをふまうをめへきんあうを
なれどいやうを

玉ノ心ハ兵ノ宋ト云ノ心
兵ノ心

ハ月ニムカヒテ
葉ヲカタムケテ根
シカクノ人
辛し

るとりかやうはなかとかのもとぐさ酒ぐ[illegible]人
べの酒をびうとをひかうるもの酒ぐ[illegible]ぐへぞ
（はるかミテハタヒテ手ヲ嗜女ノ手ヲ女ニセシト玉シノ玉トキトメメリ）
その色（モシサシテ云）となんなん（千本ニ）ものをべくとぞ（係ト注ト）
やうし竹ひるるとうや

国立国会図書館

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用